

【高等学校「情報Ⅰ」

コミュニケーションと情報デザイン、情報デザイン】①

静岡県

学習指導と学習評価の工夫・改善点の概要

- ・主体的に取り組める課題の設定
- ・より伝わりやすくするためのペルソナの設定

評価規準

知識・技能：効果的なコミュニケーションを行うための情報デザインの考え方や方法を理解し表現する技能を身に付けている。
思考・判断・表現：コミュニケーションの目的を明確にして、適切かつ効果的な情報デザインを考えている。
主体的に学習に取り組む態度：情報デザインをあらゆる場面で主体的に活かそうとしている。

情報デザインの基礎に
関する授業

ペルソナの設定

ストーリーの作成

動画の作成

発表・相互評価・
振り返りレポート

学習指導と学習評価の工夫・改善の具体的な取組

- ・主体的に取り組みやすいように、高校の受験を考える中学生への学校紹介動画の作成をテーマとする。
- ・伝わりやすい情報デザインとなるように、ターゲットを明確にする「ペルソナ」の設定を行う。ペルソナの設定のために、中学生へのインタビューを行う。
- ・評価については、単元の最後に、ワークシートの記述を元に以下のように行う。

知識・技能

「情報デザイン演習の中心テーマである『情報デザイン』とは何かを自分なりに定義しなさい」という問いから、相手にメッセージを伝えることが目的であることを理解しているかどうかを規準として評価する。

主体的に学習に取り組む態度

「その情報デザインの考えや手法を学ぶ意義について、自分の根拠を持って説明しなさい」という問いから、根拠を持って情報デザインを学ぶ意義を説明しているかどうかを規準として評価する。

【高等学校「情報Ⅰ」

コミュニケーションと情報デザイン、情報デザイン】②

【①】

次の「3項目」についてまとめる

- ユーザ属性
- 中学校での属性
- ユーザのニーズやゴール

この子を南校に入学させるんだ！

別のワークシートに生徒が書いたペルソナの顔と名前を教員が撮影して取り込む

各個人の成果を「平均」して1つにまとめる

インタビューシートの内容を項目ごとに端的にまとめる

	メンバー1	メンバー2	メンバー3	メンバー4	メンバー5
HRNO	1515	1517	1518		
氏名					
ユーザ属性 (年齢、性別、家族構成、趣味、...)	メンバー1	メンバー2	メンバー3		
	15	15	15		
性別	男	男	男		
母、父、姉	母、父	母、父	母、父、ママ、弟		
テニス	ランニング	ランニング	プラモデル		
バレーボール観戦	旅行	読書	読書		
アニメ鑑賞	読書	読書	読書		

【②】



- (例) ○○高校の魅力を伝えよう (学校紹介動画の作成)
- 事前授業 (情報デザインに関する、知識・技能の習得)
情報デザインとは何かや、抽象化・可視化・構造化の情報デザインの3の視点の習得を目標に、事前授業を行った。
 - 学習動画の作成 (1グループ4人程度のグループ学習)
下記の流れで、1分間の学習動画を作成し、プレゼンテーションを行った。
- ①ペルソナの設定
誰に伝えたいのか明確化するために、ペルソナの設定を行った。ペルソナの設定では、進学を考える中学生にインタビューし、それをもとに生徒像についてユーザ属性 (年齢、性別、家族構成等)、中学校での属性 (部活、委員会等)、ユーザのニーズとゴール (知りたいこと、不安に思うこと、解決したいこと等) の3点で整理した。
 - ②ストーリーボードの作成
ペルソナの設定から、核となる内容を見出し、ストーリーボードを作成した。プレゼンテーションの作成がスムーズにいくように、ストーリー性、時間配分、BGM、ターゲットのニーズを満たしているか、視覚的な表現になっているかなどの動画作成のポイントについてループリックにまとめたものを渡した。
 - ③動画の作成
ストーリーボードをもとに動画を作成した。
 - ④発表・相互評価・レポート作成
発表では、動画作成のポイントのループリックをもとに相互評価を行った。また、振り返りレポートの作成を、googleフォームで用い、行った。
- 評価
レポートの内容を元に、評価を行った。

【活用したソフトや機能】 動画作成はipadでClipsを用いた。

「共通教科情報科「情報Ⅰ」の学習指導と学習評価の工夫・改善について」

・情報デザインについて

生徒が主体的に取り組みやすく、生徒の多様な考え方を反映させやすい題材であった。特に、ペルソナの設定を丁寧に行い、班内で情報の共有をしたことが、対話的で深い学びにつながるポイントであった。動画作成を行う上で、生徒にとって資質・能力の育成が段階的に図れるような、計算された授業設計であった。

評価については、設定した資質・能力の育成とより関連できるとよかった。例えば、動画のクオリティから、情報デザインに関する技能を評価したり、聴講した生徒の反応等から、相手に伝わるような最適な情報デザインとなっていたかどうかを見取り、思考・判断・表現を評価したりすることができる。主体的に学習に取り組む態度は、評価規準に照らし合わせるならば、説明の「根拠」の内容から、情報デザインをあらゆる場面で活かそうとしているかどうかを見取ることが必要である。また、今回身に付けた技能をどのように活用していきたいかを質問として設定することも考えられる。さらに、動画作成の中でどう工夫したのかを質問する事で、粘り強さや学習の調整力を評価することができたと考える。このような評価を行うことで、指導と評価の関連がより深まり、生徒の資質・能力の育成につながると考えられる。